

## オーストラリアのお茶事情

### ① スーパーについて

17 期 倉橋由利子

コロナの真最中の 2021 年 7 月、夫の転勤でオーストラリアの西豪州にあるオーストラリア第 4 の都市パースに引っ越してきました。この時はパース行きのジャンボ機に乗客たった 18 人という状況でしたが、今は満席になっており、やっと気軽に海外旅行がいただけるタイミングになっているかなあとと思います。

オーストラリアは英国連邦の一つでティー文化が根ざしております。

1 回目はスーパーの様子をご紹介します。

オーストラリアには大きくわけて 2 大スーパーがあります。

2 大スーパーとは Coles(コールズ)と Woolworth (ウールワース) で、後者は Wooly (ウーリー、オーストラリア人は単語を略してニックネーム風につけるのが好き)とも呼ばれます。



前者のシンボルカラーは赤、後者はグリーンで、ショッピングセンターにも両方あることが多いですが、ライバル同士だからか場所が端と端 (遠い反対側) にあり掛け持ちショッピングしたい場合はかなりの距離を歩くことになります。

両方のスーパーにおいてあるお茶類はほとんど同じものなので、この売り場をよく見れば、オーストラリア人の好みや売れ行きがはっきりわかるかと思えます。

それではどちらで買うのが得か? というところは買い物本人がそのスーパーの会員になっ



ているか否か (ポイントがたまる)、半額セールをやっているほうで買う、ということになるようです。

ブランドに関係なく、紅茶 (お茶) 売り場を通していえることは、9割以上がティーバッグで売られていること、全体の7割が紅茶、2割がハーブティー、1割がグリーンティーという事です。

この中にはカフェインレスのものも含まれますが、売られているお茶の種類は日本に比べるとはるかに多いです。

皆様が日本でも見かけたことがあろうお茶ブランドとしては、以下がスーパーで売られています。

\* オーストラリアブランド…T2、Nerada 等

\* オーストラリア外ブランド…トワイニングス、ディルマ、イングリッシュティーショップ、クリッパーティー、リプトン、テトレイ、ヨークシャーティー等

それでは紅茶、ハーブティー、グリーンティーの売り場の様子をいくつか紹介していきたいと思います。こちらがスーパーのお茶売り場の様子です。



一番売り場の面積を占めているのがトワイニングです。元々はイギリスのブランドですが、トワイニングオーストラリアという現地法人があり、定番のイングリッシュブレックファースト、アールグレイなどが販売されています。このブランドの紅茶は外部イベント時のセ



ルフサービス紅茶や学校の休憩室などによく置かれています。



この中でもオーストラリアにしかないブレンドがあります。名前は Australian Afternoon といい、ご当地ものとして日本人駐在妻がよく日本への (ばらまき) 土産にも使っているものです。

こちらは約 10 年前、トワイニングで「オーストラリアらしいブレンド商品を作ろう」というコンテストで当時の外務大臣だった Kevin Rodd のブレンドが優勝&商品化決定で今でも販売が続けられています。

夕日にそまる大地にカンガルーが飛び跳ねている様子はものすごくオーストラリアらしい印象をうけますね。

次に一つ興味深いものをご紹介します。

ディルマはスリランカ紅茶ブランドですが、スリランカ以外で初めて海外で販売された国がオーストラリアという事もあり、スーパーにずらっと並んでいます。



その中に Ceylon Tea と Extra strength が隣同士ですが、この違いはどういう意味でしょう？



(\* 無断複写・転載を禁ず)

Extra strength というのは名前の通り、「より強く」という意味でよくよく見てみるとティーバッグ1個の重量が少し多くなっています。

Ceylon Tea はティーバッグ50個で100g、Extra strength は50個で120gと表記されており、それぞれ1個が2g、2.4gと異なります。オーストラリアはイギリスと同じようにミルクティー文化なので、より濃く抽出できるものが好みという人も多いのでしょうか。



ハーブティーに関しては、ミント、カモミールを中心に、他のハーブやスパイスをブレンドしたものが多く見かけられます。

そして、カーム（気持ちが穏やかに）、ダイジェスト（消化促進）、スリープ（よく眠れるように）など健康管理を目的としたに応じたブレンドのものが多く、日本では見かけないようなハーブもはいつていることもあります。





( \* 無断複写・転載を禁ず )

グリーンティーも海外ブランドのものだけでなく、伊藤園（オーストラリア現地法人）のものもあります。並んで抹茶もオーガニックでスティックタイプのものであり、個別包装なので保存もしやす日本人としては自国ブランドが手にはいるのが嬉しい限りです。

以上がオーストラリアの一般的なスーパーのお茶売り場の様子でした。

スーパーに行った際には、“coffee” 又は “coffee and tea” という案内板をチェックし商品棚でどのような紅茶類が売られているかチェックしてみてくださいね！

ぜひ皆様のオーストラリア旅行の参考にしていただけると幸いです。

